

別府市医師会立別府青山看護学校 3つのポリシー

アドミッションポリシー（入学者受け入れの方針）

地域や地域の人々を愛し、本校の教育理念・教育目的・教育目標を理解し、目的意識を明確にもった、次のような資質をもつ学生を積極的に受け入れます。

1. 看護師になりたいという強い意志のある人。
2. 高校生活や社会生活などにおいて、学級活動やスポーツ・文化活動、社会参加などの活動をとおし、仲間信頼され、仲間と共に目標達成に向けて努力してきた人。
3. 地域・社会に関心をもち、人々の役に立ちたいと思う人。
4. 基礎的な学力のある人。
5. 挨拶など基本的な態度を身につけ、周囲の人々や自分を大切にできる人。
6. 規律を守り、責任感をもって行動できる人。

ディプロマポリシー（学位授与の方針）

地域医療の担い手として能力を発揮するために、地域や地域の人々を愛し、教育理念・教育目的・教育目標に沿って設定した授業科目を履修し、所定の単位を修めた次のような人材を社会に輩出いたします。

1. よりよい人間関係を築く力を身につける。
2. 地域愛を基盤に、心のこもった看護が提供できる力を身につける。
3. 確かな知識と技術をもち、科学的根拠のもと看護を実践する力を身につける。
4. 専門職業人としての倫理や責務に基づいて考え、行動できる姿勢を身につける。
5. 多職種と連携・協働するために必要な基礎的な力を身につける。
6. 看護を探究し、学び続ける姿勢を身につける。

*学則に基づき、所定の修業年限に在学し、全課程の単位が認定され、上記の能力を身につけた学生は、卒業が認定される。

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

ディプロマポリシーに掲げた看護師を育成するため、以下の方針に基づいて3年間のカリキュラムを編成し、実施いたします。

1. [よりよい人間関係を築く力を身につける。] 看護の対象は人間です。その対象とは患者とその家族であり、地域に暮らす人々であり、ともに保健・医療・福祉を支えている多職種です。看護師は、その人々と良好な人間関係を築く努力を惜しまず行う必要があります。まずは、基礎分野において人間や人間を取り巻く社会を理解し、心理学・感性の哲学・人間関係論といった科目をとおして人間関係を築くための知識を身につけ、さらに、専門基礎分野の臨床心理では援助的な人間関係を構築するための方法を学びます。それらを基盤にして、グループワークにおける意見交換、実習におけるリフレクション、課外活動における学生主体のグループ活動を多く取り入れ「相手の話を聴くこと」、「相

手の考えを知ること、“相手の気持ちをわかろうとすること”、“相手に分かるように自分の考えを伝えること”、“相手の反応をみて自己を振り返ること”を繰り返し体験していきます。その過程において自己を見つめ、相手を尊重する姿勢や、相手と協調する力を養っていきます。これは、看護師として必要なコミュニケーション力を養うものでもあり、本校が最も重要と考えている教育課程実施の方針です。

2. [地域愛を基盤に、心のこもった看護が提供できる力を身につける。] 対象に心のこもった看護を提供するためには対象を理解することが必要となります。基礎分野で人間や社会について学び、専門分野では基礎看護学をはじめ各領域にわたり身体的・精神的・社会的・霊的側面から人間を統合体として理解するための学習を積み重ねます。また、地域の様々な場における体験学習、実習、学生主体の課外活動をとおして地域に暮らす人々との交流を深めます。中でも、様々な看護活動の場で展開する地域・在宅看護論実習は本校の教育課程実施における特徴を現すもので、人々や暮らしに関心を寄せ、理念に掲げる地域医療の担い手となる看護師を養うためにも力を入れるところです。そして、地域の人々との出会いや交流をとおして思いやりや優しさ、誠実さを育み、豊かな感性を養うことを期待します。
3. [確かな知識と技術をもち、科学的根拠のもと看護を実践する力を身につける。] 人々の命と生活を守る看護専門職として責務を果たすためには、対象に安心・安全な援助を提供するための確かな知識と技術が必要です。そこで、解剖生理の知識をはじめ疾病や健康段階に応じた看護を学ぶ中で、知識を看護に活かすことができる授業の展開をします。そのひとつに、解剖生理学の知識を、症候論に関連させて展開していく授業があります。基礎看護学における臨床判断では、“気づき”を看護専門職の気づきに発展させ臨床判断する力に導きます。これらの知識を各看護学領域の実習で統合させ、看護実践能力につなげます。また、1年次から患者を想定した基礎看護技術のトレーニングを行います。卒業後即実践につなげることができる技術の習得を目指します。2年次から3年次にかけては、各専門領域別の実習をとおして健康段階別・発達段階別の看護について学びを深め、臨床場面を想定したシミュレーション演習や臨地実習をとおして状況を判断しながら看護を実践する力を養っていきます。
4. [専門職業人としての倫理や責務に基づいて考え、行動できる姿勢を身につける。] 成長するまでに培ってきた個々の道徳的考えは、人々の生命や生活を前にその判断を求められ試される時がやってきます。1年次における看護倫理の講義をとおして“倫理、とは何であるかを学び、看護師の行動指針となる「看護者の倫理綱領」について理解を深めていきます。また、グループワークをとおして他者の価値観や、自己の価値観に気づいていけるような授業を展開します。また、実習をとおして“リフレクション”の時間をもち、臨床指導者や専任教員の客観的な視点により実施した看護の振り返りを丁寧に支援します。1年次からの学習や実習における体験をとおして、自分の行動が他者に与える影響について考え、専門職業人としての責任感と倫理観を養っていきます。
5. [多職種と連携・協働するために必要な基礎的な力を身につける。] 看護はチームで行われます。専任教員が担当する看護学の講義ではグループワークを多く取り入れ、メンバーと協力して最後まで

考え抜く力、答えを出す力を養います。地域・在宅看護論や領域横断科目となる家族看護・専門職連携・継続看護をとおしては、保健・医療・福祉にかかわる多職種の役割を学びます。また実習や演習をとおして他専門職学生との交流を深め、専門職間の連携・協働の必要性について考えていきます。このような活動をとおして、メンバーシップ・リーダーシップを身につけながら、多職種と連携・協働する力、地域・在宅で看護を実践する力を養っていきます。

- 6.〔看護を探究し、学び続ける姿勢を身につける。〕各看護学領域で与えられる課題の解決に向けて、個人またはチームで情報を集め整理し、ねばり強く最後まで考え抜き自ら答えを導き出すことのできる講義や実習を展開します。また、看護研究の授業をとおして研究方法を学習し、一つの事例を掘り下げて考え事例としてまとめる力を養っていきます。これらは臨床において課題を発見する力、今後の看護を発展させる力として必ず役立つものとなります。さらに、課外活動では、学生の皆さんの気づきや発想を最大限発揮できる主体的な活動を支援します。主体的な活動は、探求心や学び続ける力を養うものとなります。